

2017年11月28日

穂し落

サトウキビ産葉は、沖永良部経済の維持に重要な役割を果たしている。この観点から民間企業の南栄糖業と地域経済との関連を見よう。奄美大島加計呂麻島の叶芳和教授は、サトウキビ生産は、県内に3・97倍の経済効果をもたらすと語っている。南栄糖業というサトウキビ処理会社が島内にあるから、運送業や修理業、企業関連業務等が付随してゐる。農工連携の典型である。南栄糖業の現在の雇用は、常勤社員は36人で、製糖期の季節要員は40〜50人である。西町への住民税収入は大きくと推測できる。

南栄糖業は、1996年からの経営危機を経験した。当

時サトウキビ生産は、わずかに4万7千トまで落ち込んだ。それで累積赤字は10億円を超してしまった。96年に28人を解雇した上に、翌年にはさらに22人を解雇する計画が提示

南栄糖業と地域経済

西村 富明

(沖永良部国頭・西村書齋主宰)

された。東京本社も沖永良部に移転し、再建に努めた。

このような試練を乗り越えて、農家も協力して現在は輝かしい実績を上げた。16・17

年度の操業は、例年より早く12月1日に始まり、4月29日

に終了した。搬入量は、9万6500トに達した。1反当たり収量も伸びて6・1トに達した。会社側は、今期の原料について、天候に恵まれたおかげで、キビ重量良し、単

ンボジウムがあった。サトウキビコンサルタントの杉本明氏は「製糖工場は、食糧生産と地域のエネルギー供給の拠点だ」として、新たな付加価値を地域にもたらしもう一つの産葉を提示した。燃料エタノールの製造やバガスによる工場発電の売電などを、可能とする「周年収穫多段階利用技術」確立への戦略を提言した。10月操業をイメージしている。石田秀輝東北大学名誉教授は、沖永良部の自立自足型社会に向けて、サトウキビの高次利用展開に期待した。

収良し、糖度良しで、質量とも良かったと喜んでいる。農家の皆さんが頑張ったおかげである。

ことし7月、サトウキビ産業の未来と沖永良部経済の持続的成長の在り方を考えるシン

会社と島民が一体となつて、「将来展望の検討委員会」を設立する好機が到来していると私は思った。